

キーワード8 信頼・安心感

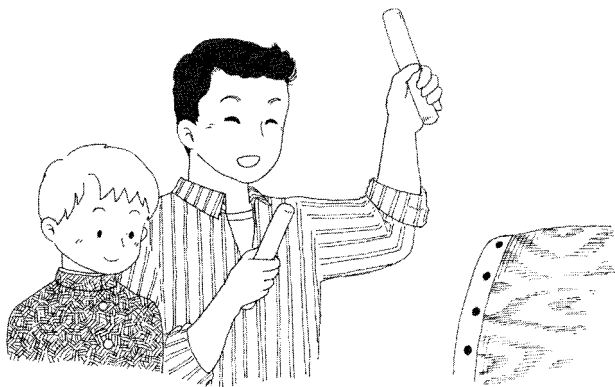
Qさんは、自閉的傾向がある子供である。一人遊びが多く、友達や教師のそばに近づかなかったり、ときには、教室から飛び出して、校庭のかたすみの草むらにたたずんでいたりすることもある。

グループ指導のときに、担任のR教諭は、Qさんが友達と一緒に歌に合わせて体を揺らす遊びを取り入れた。すると、初めは刺激の強い揺らし方を喜んでいたQさんが、次第にゆったりとしたリズムでも気持ちよさそうな表情で、体を揺らすようになっていった。

回を重ねると自分から体を揺らすようになり、R教諭にも自分から合わせることを求めるようになった。

それから数日後、総合的な学習の時間で和太鼓を使った。R教諭はその和太鼓を、昼休みに数人の子供に叩かせていた。

すると、Qさんはその音が気に入ったようで、R教諭のそばに来て隣に座って聞き入った。Qさんが他の子供と一緒にになって、ゆったり過ごしている昼休みは初めてのことであった。



この事例のQさんは、教師とリズムを合わせる心地よさから、「この先生と一緒に気持ちがいい。」「先生となら何でもできる。」と感じ、頼れる気持ちをもったのでしょう。言葉でのコミュニケーションが困難な子供でも、表現やちょっとした仕草など、気持ちを伝える方法を考えたいものです。

信頼・安心感を育むために

① 教師が子供を信頼する

人は、「信じてくれる人を信じる」ものです。教師が子供を信じることが出発点です。

② 継続が信頼を生む

「先生は、新しいことを始めても一週間か十日でやめる。」と言った子供もいます。同じ事であっても、誠意をこめて繰り返すことが、子供の心に信頼や安心感を育てることになります。

③ 気分に左右されない態度が信頼感をもたらす

教師はそんなつもりではなくても、子供たちは「その日の気分で怒らないで。」と言います。教師が気分のままに子供に接していないか、反省してみる必要があります。

④ 子供の秘密を守る

「子供から聞いたことをしゃべらない」ことは、子供の人格、尊厳を守ることにつながります。

⑤ 子供との約束を守る

「先生が約束を守ってくれた。」といううれしさが、気持ちの触れ合いにつながり、信頼・安心感を生む原動力になります。